

# 国際再生可能エネルギー機関（IRENA）第13回総会 重要鉱物セッション 高木外務大臣政務官発言

議長、ありがとうございます。昨今の再生可能エネルギーの普及には目をみはります。それは、機器の製造コストの低下、技術的な革新による効率向上により、再生可能エネルギーの供給価格が低下したことが大きな要因の一つになっています。

再生可能エネルギーが脱炭素化に寄与することは言うまでもありません。さらに、これまでアクセスを阻害されてきたような大規模発電・送電システムの整備が適さない島しょ部や僻地において、廉価かつエネルギー安全保障に資するエネルギー源としての役割も期待されます。

一方、再生可能エネルギー機器製造に不可欠な重要鉱物資源の需要は、今後急増すると見込まれます。重要鉱物資源の価格が高騰した場合、再生可能エネルギーの生産コストを大きく変えることが予想されます。また、供給の途絶が起こった場合には、生産コストを大きく変えるだけでなく、サプライチェーンの脆弱性により再生可能エネルギー機器の供給不足や修理不能という事態が起こります。

人々が尊厳ある生活を営むのに必要なエネルギーへのユニバーサルなアクセスを実現するためには、再生可能エネルギーの普及が、安定的な鉱物資源の供給の上に成り立つ必要があります。そのためには重要鉱物資源の強じんなサプライチェーンの構築が必須です。

サプライチェーンの脆弱性が生まれた原因の一つに、適切な競争が促される市場形成が不十分であるということが挙げられます。

その是正のためには、透明性が高く公平な市場を早急に構築する必要があると考えます。日本としては、IRENAに透明性が高く、公正な市場、必要なルールメイキングを促進する役割を期待します。

例えば、サプライチェーンにおける環境、社会、ガバナンス（ESG）を強化させていくことは有効です。採掘における児童労働、精製過程における労働者の人権・環境を無視した生産により価格競争力の獲得がまかり通っては、公正な競争とは言えません。

リサイクル・リユースの一層の促進が必要であり、そのためのルールメイキングが重要となります。その際には、環境面の負荷、労働者の人権などの要素を含めることが必要です。

さらに、リサイクル・リユースと称した廃棄物の処分とならないように、各国の対応に委ねるだけではなく、何らかの国際的なルールがあった方が良いでしょう。

リユース・リサイクルを促進する技術開発も重要です。例えば、日本では、従来の太陽光パネルに用いられている無機系の太陽光電池とは異なり、有機系の太陽光電池を開発しており、廃棄の際の環境負荷の低減が期待されています。

また、素材の使用量を低減する代替技術の開発を加速させることも重要です。イノベーションや技術開発を支援するために、研究開発に対する投資を促進すること、技術開発を担う人材、スタートアップを支援することは有益です。

IRENA はこれら議論を推進していくための最適な場です。これからも日本は、リサイクルや環境に配慮した技術などの知見からこれら議論に貢献していきます。